広報
# しうら
昭和60年
11.12月号

# あすを拓くふるさとまつり
## ―ジョイントコンサート 八百人の聴衆を魅了―

十一月二日から四日まで開催した「あすを拓くふるさとまつり」は、市浦村誕生三十周年にふさわしく、例年にない盛り上がりをみせました。

福島県三春町歴史民俗資料館の松本登館長を招いての記念講演やミニ歴史展、地元出身三大歌手（鳴海重光さん、伊南喜代子さん、相川光雄さん）のジョイントコンサート、米まつり、リサイクルバザー等の出品が、村民からは多数の作品が出品、展示されました。

「安東文化のふるさと―しうら―」を演題にした松本館長は「文化は北から、自由民権は地方から―、歴史的背景を大事にし、安東氏の歴史を土台に新しい村づくりをしてほしい」と結びました。

また、初のジョイントコンサートでは、村内外から訪れた八百人の聴衆を酔わせ、終日にぎわいました。

市浦出身3大歌手（左から鳴海、伊南、相川の3氏）による初のジョイントコンサート

例年になく、出品が多かった趣味の創作展。

だまこもちの作り方――。米料理はいろいろあります。

## 今月の主な記事

過疎サミット開催……2～3
村誕生30周年記念式典……4～5
あすなろのつどい……6
共同保健計画会議……7
サケ、マスふ化事業始動……8
飲酒運転の防止
おしらせ……9
健康への道……10
戸籍の窓


発行・青森県市浦村役場／編集・企画財政課広報係

# 定住、自立への道探る

## 県下初の過疎サミット開催

全国山村過疎地域振興連盟青森県支部並びに市浦村主催の「'86過疎サミット」は、十月三十、三十一の二日間市浦村コミュニティセンターで開かれ、県内の過疎団体十六の町村長（柏村助役）のほか、企画担当者、県町村会、県関係者、地元村民ら百五十人が出席しました。

県内には、過疎地域に指定されている町村が十六団体（蟹田町、平舘村、深浦町、岩崎村、柏村、稲垣村、車力村、相馬村、西目屋村、十和田湖町、天間林村、脇野沢村、南郷村、倉石村、新郷村、市浦村）あります。

過疎地域が直面しているものろもろの課題は、どれひとつとして人口と無縁ではすまされない。自然への回帰や本物志向が高まる中で、過疎化減少にも異動から定住へという静かな変革のきざしが現われてきました。しかし、これまでの急激な変化によって生じた種々の問題は、根本的に解決されたわけではありません。

新しい視点に立った自力中心型のムラおこし、産業おこしが大きな課題となりつつあるいま、過疎地域が抱える諸般の問題点を探り、その対応を考究し、豊かで暮らしやすい地域社会づくりを展望しよう——と、過疎サミットの主題を「過疎のあすを考える」＝いま語らい、定住と自立への道を探る＝と定められました。

一日目は、主催者を代表して木戸英夫蟹田町長が「同じ悩みを持つ過疎町村が、情報交換し合いながら、よりよい地域づくりをするための会合としたい」とあいさつ、県地域振興課の川手晃課長は「地域の主体的取り組みの中での自立の意義は大きい」と強調しました。

続いて、三重貢村長が歓迎のあいさつをしたあと、脇野沢村、西目屋村から事例発表がありました。

事例発表では、脇野沢村の浜田昭三村長が、「オリジナルな村づくり」をテーマに、「アラの村復活を目指しながら、美しい自然を活用した施策、リフレッシュふるさと事業の指定を受け、都市との交流事業を起爆剤に地域産業を振興させるため、輪を広げるプロジェクトチームの結成、地場産業センターを中心に地場の産物を活用した産業振興に取り組んでいる。これらは、ふるさとの歴史、風土、文化の特性を見直すことから出発したものだ」と結びました。

西目屋村の三上昭一郎村長は、西目屋村の地場産業をテーマに「五十三年度に鉱太鉱山の閉山により過疎地域指定となった。村が静かになると同時に村民も静かになった。『住民の心の過疎化』を防ぐため、目屋ダムに堆積する砂を手始めに、ヤマメ、ニジマス種苗生産、バーク堆肥の生産等地域振興に係る状況を報告。また地域産業を育てる視点として、特色ある産品づくりは物まねでなく、独創性が勝負——と強調。行政レベル

# 地域創出へ

## 16町村長意見交換

1日目の事例発表、基調講演には、各町村企画担当者、地元村民ら約150人出席しました。

2日目は、村内の施設を視察したあと16の町村長が地域再生へ向けての会談をしました。

# 豊かで住みよい過疎脱却で

三重村長が、過疎サミット市浦宣言を発表し、盛会のうちに閉会しました。

では製品開発はできても、売れる商品となると、感覚的にずれがあることから限界がある。商工団体との協力体制が必要である」と呼びかけました。

さらに基調講演では、大分県の一村一品運動の元祖的存在である大山町農協組長の矢幡治美氏が、昭和二十九年以来進めてきた梅、栗を中心とした果樹栽培で①月給農業②売れる物づくりによる安定収入の確保、③小規模生産方式の確保、④過疎休三日制労働等の展開とその経過と状況を紹介しました。

その中で、「優等生にはいないが、劣等生も出さない統制指導の徹底に取り組んだ。そのため県からは“アメリカ的中共方式”と批判されたこともあったが、地域の劣等生問題に気付かない町村は過疎になる」と指摘しました。

また「一戸当たり年間所得六百万円を超える収入を得たった大山町では現在くづくりに重点をおいている。教養を得なければ地域社会を育たない。国内、海外研修による体験と年間の恒例行事を通して共に助け合い、喜び、励まし合う隣人愛と友情を醸成する習慣、学習に取り組んでいる。」

矢幡氏は最後に「働く場以上に都会と同質の文化性を持った地域社会が必要だ。いまの二十歳代の価値感は大きく違ってきている。活性化運動もまだだめである。きことは多いが、そのための人づくりは絶対必要だ」と実践に裏打ちされた地域活性化の課題と展望を語り、聴衆を感動させました。

二日目は、村内施設の中島遊歩道桜、肉用牛育成センター、村誘致企業伯津軽テニカ、山村広場等を視察したあと、十時から「過疎を克服するための定住条件の整備をどうすればよいか」をテーマに町村長会談が開催されました。

座長には三重村長を選出したたあと、①過疎はなぜおきるのか、その現状をどう考えるか。②過疎脱却可能か、③定住条件整備へ課題、④高齢化社会への対応、⑤情報交換の強化について等、各町村の現況と対応についての話し合いがありました。

この中で、過疎のとらえ方については、「人口は地域の生産力により決まる。現在居住している住民に、よりよい条件整備をしてやることが必要であり、人口減少を単に過疎とは考えない」という意見と「人口増加につながる施策をたあと、①過疎はなぜおきるのか、その現状をどう考えるか。②過疎脱却可能か、③定住条件整備へ課題、④高齢地域の高齢化問題の特異性に対する対策、⑤情報交換の強化について等、各町村の現況と対応についての話し合いがありました。

もっこの会議を継続することや過疎村内人的交流、情報交換を活発に行うことを申し合わせ、過疎地域再生に立ち上がる「過疎サミット市浦宣言」を採択、発表して閉会しました。

## 過疎サミット市浦宣言

住民重視の立場から自然と生活環境の調和の中で、過疎対策に、新しい視点から問題の直しが求められている時、過疎・過密なき社会、安らかさと快適な社会建設を目標とし、主題に「過疎の明日を考える――いまから、定住と自立への道を探る」を掲げてわれわれは協議をいたしました。

過疎地域の人口減少傾向が鈍化したと言われ久しいが、それはピーク時との比較であって現在なお若年層中心の人口流出は著しく、高齢化現象、地域社会の機能低下を招き、後継世代の確保の見通しも依然として全国的に厳しい状況にあるなど、暗く、生産や雇用、生活の面での格差はなお大きく、過疎現象は今後さらに続いていくものと思われます。

こうした厳しい事態に直面しながら過疎指定という特典を活かして、これまで産業基盤や生活環境の整備を中心に各般にわたる施策を計画的に逐行し、居住条件の向上に努めてきたところであります。

過疎問題の要因は多岐にわたるが、過疎町村それぞれがその地域に賦存する資源と魅力と特性を生かした産業おこしを積極的に進めて行くことで意見のまとまりをみました。

また、かって大都市へ流出したムなくして人口を止め得ないところから、過疎町村それぞれがその地域に賦存する資源と魅力と特性を生かした産業おこしを積極的に進めて行くことで意見のまとまりをみました。

生産と生活を維持するための基礎的条件が著しく悪化し、過疎地域の抱える問題は複雑多岐にわたり、克服すべき課題も山積しているところから、この会議を契機として今後、人的交流や新鮮で魅力ある幅広い情報交換を活発に行っていくことしました。

右宣言します。

昭和六十年十月三十一日

**過疎サミット**

## 海と山と湖と、安東文化のふるさと

# 村誕生30周年 盛大に記念式典

## 21世紀へ向けて力強い一歩

### 新たな飛躍誓い合う

昭和三十年三月三十一日、相内村、脇元村、十三村の三ヵ村が合体合併して今年は三十年目に当たります。

村ではこの意義ある年を記念して十一月一日午前十時から、村コミュニティセンターにおいて村内外から関係者二百人を招待して、記念式典を行いました。

北津軽郡相内村、脇元村、西津軽郡十三村の三ヵ村が、合併促進法に基づき、合体合併し、市浦村が誕生して今年で三十年になりました。

この間、多くの先人により産業の振興、住民福祉の向上、生活環境の整備、教育文化など、さまざまな分野に力が注がれ、海と山と湖を活用した安東文化のふるさと―しうらとして発展してきました。

式典は、工藤誠一郎助役の開式のことばで始まり、三重住村長が「ばんでよかった市浦村、老若男女を問わず、みんなが参加できる村づくりのふるさと、そんな市浦をつくっていきたい。」と式辞を述べました。

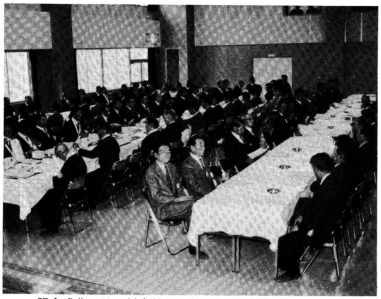
このあと、村誕生三十周年を記念して制定した表彰条例に基づき、自治功労、善行、特別表彰があり、前村長白川治三郎氏ら十七人に三重村長から表彰状と記念品が贈呈されました。また、三十周年に当たって村民憲章、村の花、村の木、村の鳥を制定しましたが、公募して入選した浦田啓三郎（村の花の部）、原田寿郎（村の木の部）さんらに表彰状を授与しました。

式典では、村民憲章、村の花、木、鳥の制定について紹介されましたが、小さな胸に大きな希望を燃やし、未来の光の中でふるさとのあすを拓いて行く笹内小学校の児童が村民を代表して発表しました。

続いて、来賓祝辞や受賞者を代表して秋田谷久助さんが謝辞を述べたあと、竹谷順子さん＝市浦中・三年＝が記念作文を発表しました。

最後に村議会議長青山又一氏の音頭による参加者全員での万歳三唱があり、成田義衛収入役の閉会のことばで、式典を終えました。

式典のあと、祝賀会が開かれ、塚本恭一中里町長が乾杯の音頭をとり、市浦村誕生三十周年を祝いました。



記念式典には、村内外から約200人が出席しました。

武器を捨てた三重村長

## 村民憲章

### 市浦村民憲章

わたしたちの先人は、海と山と湖とに抱かれたこの地をこよなく愛し、津軽の歴史に輝かしい足跡を刻んできました。

わたしたちは、この伝統を誇りを持って継承し、よりつよい活力に満ちた創造の精神を発揮して、郷土の限りない発展を願い、ここに村民憲章を定めます。

一、しごとに誇りをもち
　くらしの豊かな
　村をつくります

一、うつくしい自然を生かし
　住みよい環境の
　村をつくります

一、らんぼうな言動を慎み
　文化の香り高い
　村をつくります

一、むつましい人間関係を築き
　明るく健やかな
　村をつくります

一、ふるさとの郷土
　市浦村を力を合せて
　つくりあげます

## 村の花・鳥・木

式典では、村民憲章のほか村の花・鳥・木が制定され、村民を代表して、村内小学校の児童が発表しました。

**木** ヒバ（学名 あすなろ）

**花** 月見草（大待宵草の通称）

**鳥** とんび（鷹）

村内小学校の代表が村民憲章、村の花・鳥・木を発表しました。

# 連帯と協調の精神で

村長　三重　貢

市浦村が誕生した昭和三十年当時は、日本はまだ戦後の復興期で社会的、経済的にも極めて不安定な時代であり、合併の条件として華々しく掲げた新村建設計画の実行も容易ではありませんでした。

しかしながら、合併を推進した先達の努力や歴代村長を筆頭としたその時代、その時代の村民各位のご尽力によって、この困難を克服し、新村の基礎づくりに努力されましたその功績に対し、心から敬意を表するものであります。

合併当時、五千五百五十七人であった人口が、現在は四千人程度に減少しており、将来の人口動態を占う出生数もかっての半分に激減しています。このまま推移するならば若年労働者の村外転出によって過疎化は更に進むことが必定であります。

これをくい止める有効な手段は、一口にいって若者たちの定住できる魅力あるふるさとを作ることは言うまでもありません。

若者の定住に必要なことは第一に働く場の確保であり、第二は多様な価値観をもつ若者のニーズに応えられる文化水準の向上と充実であります。

この二つは、最も根本的なことであると同時に現実的には最も困難な課題でもあります。しかしながら、わが村には海と山と湖があり、無限の可能性があります。

村民の叡智と政治の総力をあげて、この天から与えられた可能性を多角的にとらえ、多面的に活用していくならば必ず活路は見出せるものと確信するものであります。

しかも私たちには、先達が残してくれた歴史的教訓遺産が数多くあります。

東北の歴史の中でも全く空白であったこの地域に近年、歴史学、考古学的検証のメスが入れられ、平泉に次ぐ東北第二の中世都市を作ったとされる安東の伝承が実証されようとしています。

住んでよかった市浦村、暮らしてよかった市浦村、老若男女を問わずみんなが参加できる村づくりのふるさと、そんな市浦のふるさとを、連帯と協調の精神でつくるため、歴史を明日に生かしていくことをお誓い申し上げ、あいさつといたします。

青山村議会議長の音頭で万歳三唱。

出席者全員で乾杯をして新たな飛躍を誓い合いました。

自治功労・善行・特別表彰も行われました。

# 村民ふれあいひろば

# あすなろのつどい

「隣人をいたわり愛し、手をとりあって築こう我が郷土」をスローガンにかかげた村民ふれあいひろば、あすなろのつどいは十一月十四日市浦村コミュニティセンターで開催されました。

つどいは、市浦村社会福祉協議会、村老人クラブ連合会、母子福祉会などの共催で、毎年開催しているものですが、市浦村誕生三十周年の記念年に当たる今年は、約百人の村民が出席しました。

高齢化社会の急速な進行と産業構造の変化に伴い、農林漁業従事者の減少が目立ち、若い人たちの都会指向などにより、地域の社会福祉に対応する住民要求も多様化しています。

あすなろのつどいは、めまぐるしく変化する社会福祉への要求に積極的に取り組むことを、そのねらいとしていますが、地域福祉、在宅福祉を進めるため、地域の住民が中心になり、専門家や行政関係者、各種団体等あらゆる資源を活用し、安心して暮らせる「明るい住みよい豊かな郷土づくり」をめざしています。

つどいでは、村社会福祉協議会青山又一会長が主催者を代表してあいさつをした後、社会福祉の向上に貢献した個人、団体に表彰しました。

さらに来賓として出席した西北地方福祉事務所藤森猛所長、三重貢村長、柏谷秀一教長らが「社会福祉の輪を広げるためには、一人一人が手をとりあって進めることが大切である。行政と社会福祉協議会、全村民が一体となって社会福祉向上のためがんばっていきたい」と祝辞を述べました。

このあと、第一部は村内小、中学校の児童、生徒が体験発表、第二部では、村内各地区の婦人会によるアトラクションがあり、集まった村民は楽しく、充実した一日を過していました。

社会福祉向上のため、一人一人が手をとり合って進めていこう一村民約100人が出席しました。

児童、生徒の体験発表は、出席者の感動を呼びました。

## 健康教室

# 更年期を迎える前に

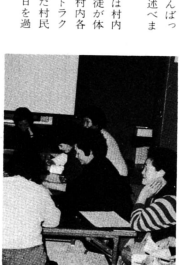
更年期は婦人として一度はどうしても通り抜けなければならない関門です。この関門をなるべく差しさわりをなくして通過するには、どうすればよいか一

十二月五日午後一時から基幹集落センターで開催した健康教室で、相内地区の婦人が「更年期障害」についての勉強をしました。

近ごろ、とても疲れて、どうしようもない。仕事も根気がなく、何もしたくない。頭がずきずき痛んだり、朝起きたときめまいがする。更年期の兆候だという。中年女性にみられる関門をなるべく差しさわりを少なくするためには「第二の人生として大いに自分の生活を楽しんだり、レクリエーションの意味で野外に出かけて体を動かすなど、規則正しい生活をすること」が必要のようです。

また、更年期を迎えた人の場合は「刺激を避け、睡眠を充分とるなど規則正しい生活の中で明るい気持で過すことが必要」

健康教室では、野宮、鎌田両保健婦が講師に当たり、婦人らはスライドを見たあと、保健婦からのアンケート調査に応じながら、更年期をかえての心得や、更年期にはいった場合の生活のしかた等について、真剣に話し合いに参加していました。



「更年期は、女性にとって必ずやってくる関門です」。更年期障害について勉強しました。

# 第16回市浦村共同保健計画会議

# 広げよう地域ぐるみで 成人病予防

## まず予防、年に一度はがん検診 正しい食生活で高血圧をなくしよう

市浦村共同保健計画会議は十一月十五日午前十時からコミュニティセンターに村民、保健所等の関係者約六十人が出席して開かれました。

今年で十六回目を迎えた共同保健計画会議は、地域の保健活動の中で、村民一人一人が自らの健康に対する自覚を高め、自らの責任において健康へ向って努力すると共に、その輪が個人から家庭、家庭から地域へと広がり、幼児から大人まで健康に対する意識の向上を目指しています。

また、豊かな老後をさこやかに過すためには、成人病の予防と早期発見、早期治療に努めなければならないことから、年間のスローガンを『広げよう、地域ぐるみで成人病予防』と定め、「まず予防一年に一度はがん検診」「正しい食生活で、高血圧をなくしよう」を合い言葉に、成人病対策を積極的に進めることを誓い合いました。

会議では、これまで実施してきた事業の経過と、新年度の事業計画を向けての課題を中心に話し合いが行われ、母子保健、子防接種、成人保健、献血、狂犬病予防、環境保健事業等これまでの経過と方向付けをしました。

共同保健計画会議では、これまでの問題点を出し合い、61年度へ向けての方向づけをしました。

## 母子保健

母子保健については、乳児健診、一歳六ヵ月児健診、三歳児健診、股関検診等を実施してきたが、離乳食指導の利用者が少ないため、乳児健診と一緒に実施してみたら、利用率が大幅に伸びた。また、母子保健事業の各種検診の際、自家用車を使用する人が多かったので、村からの送迎バスを廃止したが、利用率には変わりがなかった。

一歳六ヵ月児では、虫歯ないのがあたりまえであるにもかかわらず、今年の健診では四人に一人の割合いで虫歯にり患、三歳児健診では十四人中、十三人も虫歯にり患していることも指摘され、家庭、保育所、学校等が一体となって歯みがき指導を強化することになりました。

## 予防接種

子防接種の年齢は、幅広く決められているが、どうしても受けれない人たちのための配慮もあり、期間内に受ければよい、ということではありません。また、健康な子どもが体の調子のよい時に受けることが前提であるので、なるべく早く子防接種することと健康管理には十分配慮することが望ましい。

## 成人保健

循環器検診は三十歳以上の人が対象で、検査項目は身長体重計測、血圧測定、血液型検査、聴打診、精密検査項目では、心電図、貧血、生化学検査等となっているが、対象者、千四百七十五人に対し、受診者は五百六十七人（三十人・四％）よりない。受診者のうち男性利用者は百七十四人（三十・七％）と少ないので、受診率を対象者の二分の一を目標に取り組むことにしています。

## 子宮がん検診

子宮がん検診と乳がん検診を一緒に実施した結果、昨年より四十一人の増加があった。

子宮がん検診は、二百四十三人のうち有所見者は五十一人、乳がん検診では二百四十六人のうち要精検者が八人となっている。受診率を高るため、今後さらに取り組み方法を検討することにしています。

◇ ● ◇

会議では、ゴミ問題や道路、側溝清掃等環境保健についても活発な話しあいが行われましたが、行政と住民の役割り分担を明確にし、それぞれいい、出来ることから実施することが必要であり、地域住民、村、関係機関が一体となって各種事業を実施していくことを確認事業しあいました。

# サケ・マス ふ化事業が始動

## 今年は二五〇万粒

市浦村では、昭和五十三年からサケ・マスふ化事業増殖事業倍増計画をすすめ、サケのふ化、放流事業を行っていますが、今年も十一月一日からサケのふ化場が始動しました。

昭和五十三年十一月、磯松山国有林地に建設されたサケ、マスふ化場では、毎年ふ化事業が行われ、五月上旬には地元十三小学校の全児童、漁協関係者の手によって放流されています。

ふ化場で、約五センチまで育てられたサケの稚魚は、毎年五月上旬に十三湖から放流されていますが、ふ化放流事業がスタートした昭和五十四年から六十年までの七年間で、約一千四百五十万匹の稚魚が放流されました。

近年、十三湖周辺海域にも大量のサケが回帰しています が、地元漁業関係者は「ふ化放流事業の効果は大きい」と喜んでいます。

今年も二百五十万個のふ化を予定し、十月二十日から十三湖でサケの共同採捕をしています。十三湖内でのサケの捕獲は伸び悩み、二百万個の卵を北海道から移入する予定です。

採捕したサケは、生きたまま ふ化場に運び込まれ、採卵ふ化されますが、来年三月には泳ぎ始め、四月上旬からは生け州で餌付けされ、体重四、五gになるまで大事に育てられます。

五月上旬にはまた、十三湖から放流されることになりますが、三～四年後には成魚になって帰ってくることから、漁業関係者は一生けんめいふ化事業に取り組んでいます。

今年も始まったサケ・マスふ化場

十三湖で採捕したサケは、ふ化場に運び込まれ採卵、ふ化されます。

# 酔っていないと思っても 体は十分酔っています

## 飲酒運転の防止

♪オラは死んじまっただ～♪という歌が昔流行したことがあります。この歌は酔っったから」とか少ししか飲に強いから」などで、「自分は酒払い運転をして死んでしまった人のことをパロディ化したものですが、この歌でも分かるように酔っ払い運転は、死を背負った運転といえます。

酒酔い運転はもちろんのこと、酒気帯び運転も道路交通法で禁じられていることは、ドライバーの皆さんは百も承知のはず。それでも、車を運転してしまう人たちの言い訳は「あまり酔っていないと思

### 1 上手に運転していると錯覚する

気持ちが大きくなり、無理な追い越しや割り込みなどを平気でするようになります。

### 2 居眠り運転をしやすくなる

アルコールには睡眠作用があります。アルコールは、人間の神経などに麻酔薬と同じ働きをします。体が疲れているときなどは、知らず知らずのうちに居眠りをしがちになります。

### 3 注意力が散漫になる

周囲に対する気くばり、注意力が鈍くなります。そのため前の車ばかりに気をとられ、横から出てくる自転車や歩行者を見落としたりすることが多くなります。

### 4 反応が鈍くなる

とっさの判断が鈍くなり、動作が遅れがちになります。つまり、前方の車が急ブレーキをかけてもそれに反応しきれず、追突したりしてしまいます。

### 5 運動動作がぎこちなくなる

アルコールでやとした大脳は運動機能を低下させます。そのため、ハンドル操作やギ・チェンジなどがスムーズにできなくなり、蛇行運転をしたりしてしまいます。

◇　◇

十二月から一月にかけては、何かとお酒を飲む機会が増えます。「飲んだら乗るな、乗るなら飲むな」を地域や職場、家族ぐるみで実践しましょう。

また、酒類を提供する飲食店経営者の方は、車を運転するお客さんには酒を出さないとか、万一飲んだとき車のエンジンキーを預かるなど、真に思いやりのある配慮をしてあげましょう。

情報をお寄せください

# おしらせ

役場の電話は62－2111

## あったかな日記

三浦俊一さん（相内）
長男 俊毅ちゃん（四歳）

まいにちげんきにあそんでいるんだ。ともだちもいっぱいいるよ。

## 県農業青年大学受験生の募集

県では、働きながら学ぼうとする意欲的な農業青年を対象に青森県農業青年大学を開設し、定期的に研修を実施していますが、61年度の受講生を次のとおり募集します。

1．**応募資格**　将来、農業で自立しようとするおおむね18歳以上の青年で市町村長および高等学校長の推薦を得た者。
2．**募集人員**　50人
3．**研修部門**　水稲、果樹、野菜、畜産
4．**在学期間**　2ヵ年
5．**研修日数**　15日から20日
6．**選考日**　61年3月上旬
7．**募集期間**　61年1月中旬から2月下旬まで
8．**願書提出先および問い合わせ先**　各地区農業改良普及所

（農業指導課）

## 赤い羽根共同募金ありがとう

3ヵ月の運動期間で実施してきた昭和60年の共同募金はみなさまのご協力で、479,309円も集まりました。

集められた寄付金は、必要としている人や施設・団体に配分することになっています。

ご協力いただきまして、ありがとうございました。

## Uターン希望者の受付開始

当村では、就業機会の拡大と地域経済の活性化を図るため、地場企業の育成や企業の誘致など工業開発に積極的に取り組んでいます。

地場企業や県内に進出した企業においては、最近の技術革新に対応するため幅広く人材、特に技術者を求めている状況にあり、また一方では、最近の地方定住志向の高まりから、一旦県外で就職した人の中でもUターンを希望する人達が増えている傾向もあります。

こうした状況を踏まえ、当村では、技術者を求める企業と当村出身でUターンを希望する技術者との間の情報交換を支援するため、一つの試みとして村にUターン担当の窓口を設置し、Uターン希望の技術者についての相談や、情報収集をすることとしました。

Uターンを希望する技術者についての情報を知っておくことは、企業とUターン希望技術者との情報交換を容易にするための手懸りになります。

みなさんの家族の中でUターン希望の技術者がおられましたら、当村企画財政課までお申し出ください。

## 国税だより

**◎ 脱税は割に合わない**

所得税や法人税などは、納税者自らが所得と税額を正しく計算して納税する申告納税制度を採っています。

しかし、申告しなければならないのに申告しなかったり、誤った申告をしたり、故意に過少な申告をしたりする納税者に対しては、公平な課税を行うため、的確な調査を行っています。

また、特に悪質で大口な脱税をしている疑いのある者に対しては、刑事罰を科することを目的とした査察調査を行っています。

査察調査とは、裁判官の許可状を得て事務所などの捜索をしたり帳簿などの証拠物件を差し押さえるという強制的な調査で、もし、査察調査により脱税の事実が判明すると、脱税による税金や重加算税を納めるだけでなく、懲役刑や罰金刑が科されます。

脱税者がいかに巧妙に取引先などと謀って脱税を企てても、国税査察官のも密で系統だった査察調査により、必ずその脱税は発覚します。

納税者の皆さん、正しい申告と納税をしましょう。

## 警察署からのお知らせ

このたび警察では、1月10日を『110番の日』に設定しました。事件、事故等で110番する際には早く、正しく、あやまりのないようにかけましょう。

### 「いじめ相談室」開設

金木警察署では、最近の「いじめ問題」に対処するため、「いじめ相談室」を開設しました。お気軽にご利用ください。

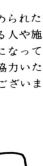
電話53-2117（内線36）

## 県立高等技術専門校転職訓練生の募集

県立の各高等技術専門校では、離職した人あるいは転職を希望している人で、技能を身につけ、新しい職場に就職しようとする人を対象に、次のとおり訓練生を募集します。

一、**募集科目**　溶接科（八戸、三沢、木造）自動車整備科（三沢、木造）建設機械整備科（青森、八戸）縫製科（青森、八戸）建築科（弘前、むつ、木造）ブロック建築科（むつ、左官科（弘前）配管科（青森、八戸）
二、**募集期間**　昭和六十一年一月六日から三月十日（各公共職業安定所で受付けます）
三、**選考月日**　昭和六十一年三月十二日
四、**問い合わせ先**　青森、弘前、八戸、三沢、むつ、木造の各高等技術専門校、最寄りの公共職業安定所または県職業訓練課まで。

業職（職業訓練課）



# 健康の道へ

▶13◀

## 脳出血は最底血圧と関係ある

庭訪問で「上の血圧に比べて下の血圧が高いから気をつけなくては…」といろいろ注意された人もいらっしゃいでしょう。

### 重視される最底血圧

なぜ下の血圧（最底血圧）が高いと悪いのでしょうか。下の血圧が高い人は上の血圧（最大血圧）の高い人に比べて数倍も脳出血をおこしやすいことが研究で示されてるからです。下の血圧が上がるのは、全身の末梢血管がちちんで狭くなったり、動脈硬化によって狭くなって血液が流れにくくなっているためです。

このことは体内の臓器にも十分に血液がまわらなくなり、脳卒中をはじめとするいろいろな臓器障害を起こす原因になります。

### 最底血圧100mmHgから治療

日本では下の血圧が100mmHg以上の群から脳卒中の死亡グループと高くく、降圧剤による血圧コントロールで死亡率が下がることがあきらかにされています。何回か血圧を測って下の血圧がいつも100mmHgあたりに出る人はやはり医師に相談するとよいでしょう。

### 血圧の管理は長く続ける

アメリカでは高血圧を「静かなる殺人者（サイレントキラー）」と呼んでいます。

高血圧の管理・治療は心肥大や血管の障害の進行を防ぐことが目的です。

結核と違い、高血圧の予防は強制的な指導、管理懲勢はとり難いものですから本人の認識と自覚が大切です。

担当保健婦・鎌田

師走ともなると気持ちもプトコロも落ちつかなくなり、こんな時は家でじっとマキストーブにあたっていたいものですが、ストーブにあたるのではなくて、脳出血でアタルのではたいへんです。

高血圧の人は寒さでさらに血圧が上がるようになります。しかし保健婦に健康相談や家

## 合格おめでとう

1級に合格した笹山さん

十一月十六日、村内各小学校で第七十一回商工会珠算検定試験が実施され、笹山靖子さんが見事一級に合格しました。

▽一級　笹山靖子（辻分珠算塾）

▽三級　鳴海咲子（十三小）竹谷光穂子、櫛引伸子（辻分珠算塾）

▽四級　中井規江（浦田塾）

▽五級　三上陽子（十三小）奈良・美、小山内みちる、秋月裕美、小川愛（浦田塾）成田恋（辻分珠算塾）

▽六級　長利史子、大川砂織（辻分珠算塾）内藤理絵（十三小）浜田千和子、秋月桃子、秋月梅子（浦田塾）

▽七級　佐藤郁穂子、小田桐晃子、佐藤友美、三和真澄（辻分珠算塾）相川雅哉（浦田塾）

▽八級　三和順子、成田こずえ、村元英紀（辻分珠算塾）木村信子、宮崎弥代、安田伸幸（浦田塾）

▽九級　中野朝美、有馬久美子、煤田光則、小山内あい（浦田塾）

▽十級　浜田美和子（浦田塾）

## 戸籍の窓

### お誕生

浦　可南子（相内）秀　治
笹山高敏（磯松）明人
二藤部佐知子（脇元）兼一郎
浜田洋平（十三）隆行
奈良隆佳（太田）孝博
奈良美和子（相内）徹
山田梓（太田）清勝
石岡由利子（脇元）明雄
三和菜々子（相内）金満
丸山美有（太田）人星
秋田真希（十三）正之

### ご結婚

（三浦　利幸（相内）
（蝦名　由佳子（五所川原）
（奈良幸喜（弘前）
（坂井哲子（十三）
（小田川一夫（相内）
（土岐よしえ（太田）
（蝦名　武和（蟹ケ沢）
（葛西隆子（脇元）

### おくやみ

（栃木誠一（岩手）
（長谷川　忠（札幌）
（小寺せき（脇元）
（相坂祐仁（十三）
（阿部深雪（五所川原）
（奈良睦英（太田）
（相内靖子（相内）
（小林昇埼玉）
（葛西弥恵子（脇元）
（蝦名輝行青森）
（高橋彩子（脇元）
（新岡一美（十三）
（石岡純子（脇元）
（小山秀樹（十三）
（田中久美子（平賀）
（前原孝吉（岡山）
（山田玲子（脇元）
小寺源徹（脇元）71歳
木津谷ソヨ（相内）75歳
三橋正實（磯松）83歳
三上タマ（相内）83歳
成田テル子（十三）56歳
三浦與八郎（相内）74歳
三浦栄蔵（十三）64歳
近藤イヨ（十三）75歳
三上光雄（脇元）76歳